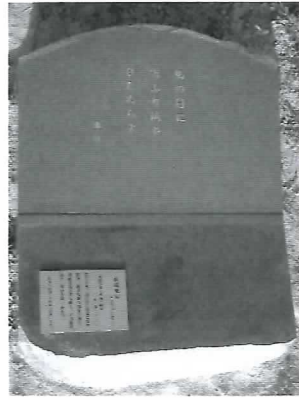
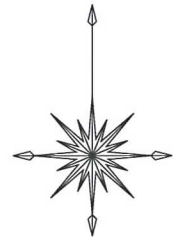


※〈シオーモの小径〉の世界は、地元俳人鬼房が、塩竈を訪れた文学者たちを迎え、〈夢幻能〉のごとく、問いかける構図である。文学碑は、正岡子規の碑は籬島に、高橋睦郎の碑はザルツブルクと塩竈の軸上に、その他の碑は、塩竈と出身地とを結ぶ軸上に向けて設置。

《シオーモの小径》



馬の目に雪ふり湾をひたぬらす
鬼房



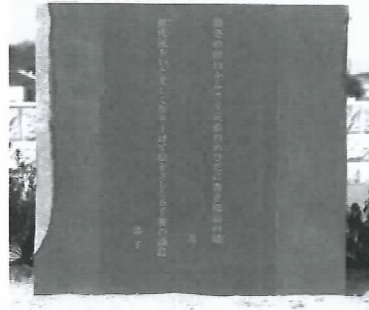
宮沢賢治

そして八月三十日の午ころ、
わたくしは小さな汽船でとなりの縣の
シオーモの港に着き、そこから汽車で
センターの市に行きました。
『ボラーノの広場』より



松島の海を過ぐれば鹽釜の
低空かけてゆふ焼けそめつ
斎藤茂吉

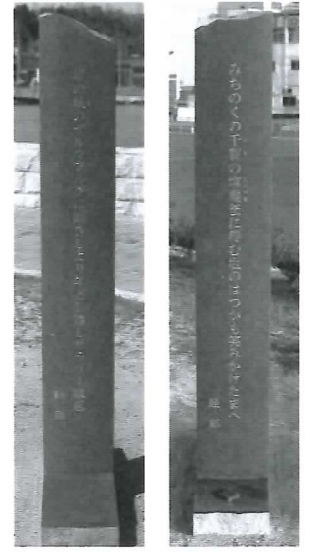
雁皮紙をいと美しく折り上げて
松をさしたる千賀の浦島
晶子



鹽釜の出口をふさぐ炭船の
あひだに青き松島の端
寛

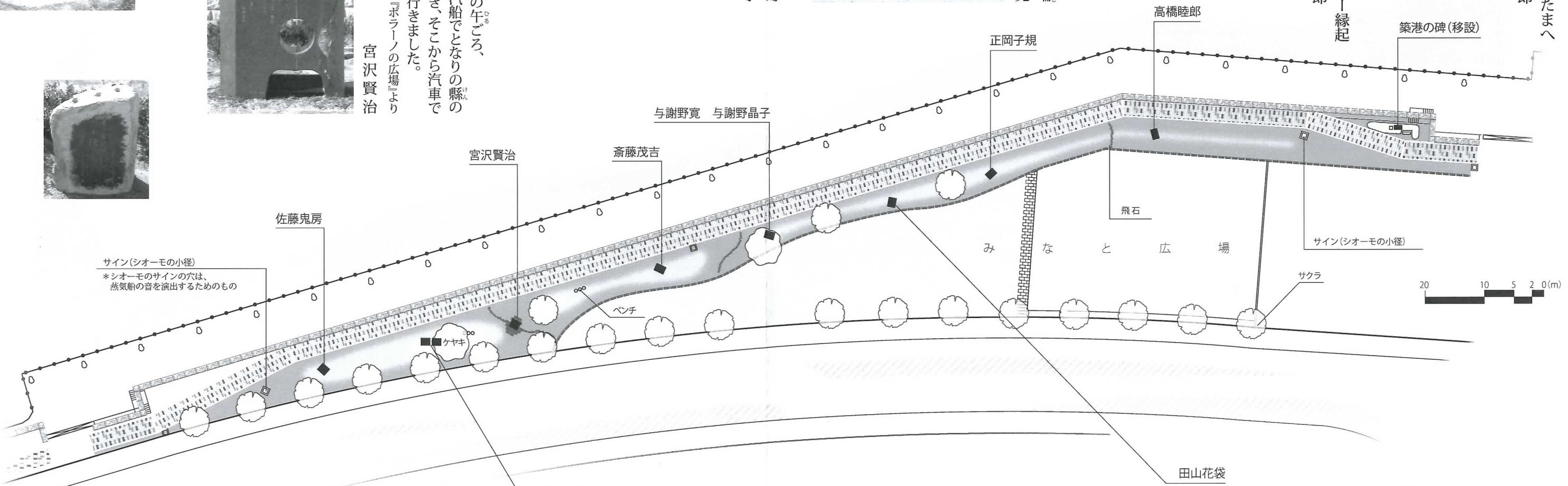


涼しさのこゝを扇のかなめかな
子規



みちのくの千賀の塩釜釜に得む塩のはつかも笑みかけたまへ
睦郎

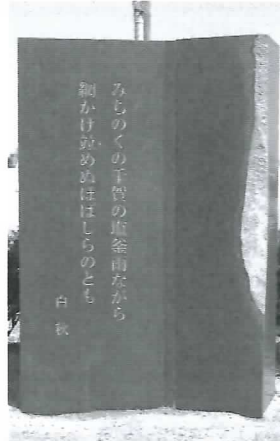
鹽の城のザルツブルクに聞きしより年どし遠しサラリー縁起
睦郎



場所	塩竈市海岸通
面積	シオーモの小径 1,178㎡ (みなと広場全体 4,798㎡)
事業費	シオーモの小径 12,000千円 みなと振興交付金 (みなと広場 37,680千円 まちづくり交付金)
石材など	文学碑 伊達冠石 賢治の碑のレール(union 1885)と敷石(一部)は、旧塩釜駅で使われたもので、碑の下部の曲線は日本鉄道(株)の社章(動輪)の一部をデザイン化したもの。 正方体の塩の結晶を一部(茂吉・睦郎)デザインに使用。 飛石、縁石は、貞山運河の護岸に使われていた間知石、ベンチは、戸沢石雑割石。 築港の碑のサインの台座の一部に塩竈石を使用。
植栽	一部に文学者ゆかりのものを植える。 田山花袋 ツゲ、与謝野晶子 バラ、斎藤茂吉 キャラボク、宮沢賢治 アジサイ その他、ケヤキ、ツツジ、ユキヤナギなど。 桜(八重紅枝垂、小松乙女)21本(塩釜さくらの会より寄贈)

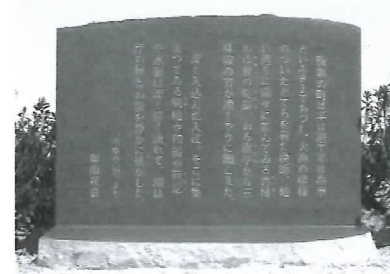
鹽釜より松島湾へ出づ
鹽釜の入江の水ははりはりとして
裂きて出づれば松島の見ゆ

牧水



白秋

みちのくの千賀の塩釜雨ながら
網かけ詰めぬほぼしらのとも



『山水小記』より
田山花袋

鹽竈の町は半は港で半は漁市といふ
さまであった。大漁の模様をついたどて
らを着た漁師、細い通りに處々に並んで
ゐる青樓の浅黄の暖簾、ある旗亭から
三味線の音が湧くやうに聞こえた。
深く入込んだ入江、そこに集まつてゐる
帆檣や和船や荷足や水脈は深く黒く流
れて、潮は岸の旅舎の影を静かに揺か
した。